

国語

○成果

- ・項目別に見ると、どの項目も全国値に近いポイントとなっている。また、各項目間に大きな差がなく、平均的に学習の成果が現れていると考えられる。
- ・「思考・判断・表現」のポイント是他項目よりも高い。内容から「登場人物の相互関係や心情」「資料を活用し表現を工夫する」ことについて全国平均より高い数値の児童が多い。

●課題

- ・学習指導要領の内容別に見ると、「知識及び技能」ポイントが全国平均よりも若干低くなっている。特に「漢字を正しく使う」問題や「話し言葉と書き言葉の違いに気付く」問題の正答率が低く、基礎基本の定着・正しい語彙を身に付けることが必要だと考える。
- ・問題形式別に見ると、選択式よりも記述式・短答式の問題がポイントが低い。書くことに慣れる指導も必要である。

算数

○成果

- ・全体的にポイントは高く、全国の正答率よりも上回っているため、理解度は高いと考える。
- ・「数と計算」「図形」の領域では正答率が高く、基礎基本の定着・知識技能の習得はできていると考える。

●課題

- ・学習指導要領の領域別に見ると、「変化と関係」の領域が他領域よりも低いポイントとなっている。
- ・問題形式別に見ると、「記述式」の項目の正答率が低く、理由を言葉や数を用いて記述することに課題があると考ええる。

質問紙（学習状況調査）

○成果

- ・「自己有用感」に関わる設問に関しては、「人の役に立つ人間になりたいと思う」「先生はよいところを認めてくれる」という設問で8割の児童が肯定的に捉えている。児童と教員との関係づくりが良好であると言える結果であるが、否定的な意見を持つ児童にも目を向けていかなければならない。
- ・ICT機器に関わる設問では、県・全国のポイントを上回っていることが多い。本校教員が、積極的に機器を授業に取り入れようと努力した結果であると考ええる。

●課題

- ・学習習慣の観点からみると、「自分で学び方を考え、工夫することができていない」児童が2割いる。「自ら調べる」「学習を工夫する」ことに関して、手だてが必要な児童がいることがわかる。